

セネガル・サン＝ルイ リフトバレー熱発生状況

2025年10月31日 金曜日現在

概要

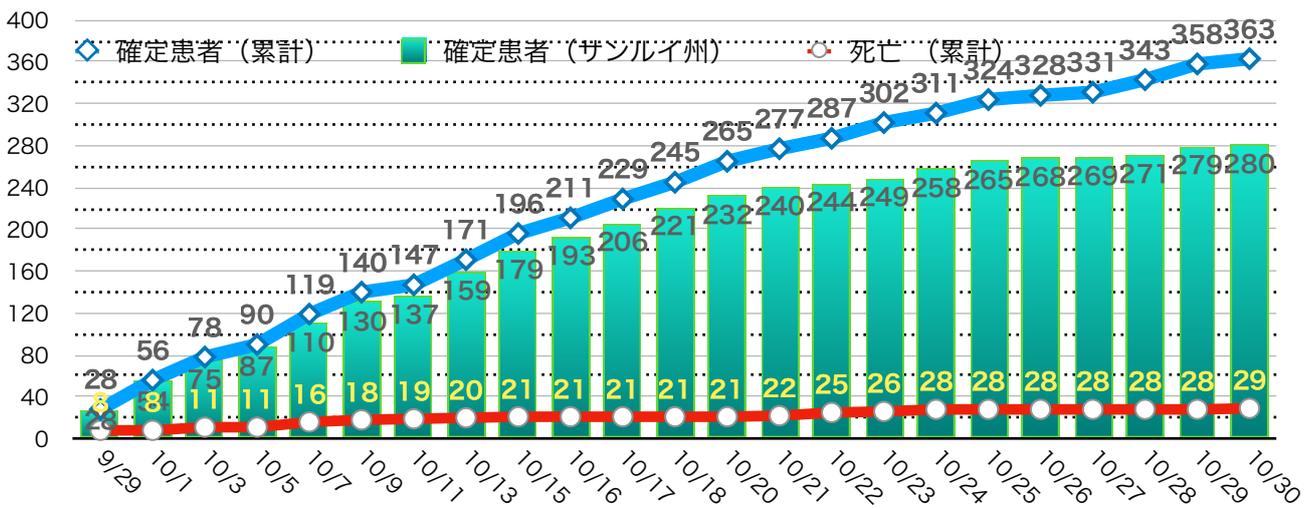
リフトバレー熱（RVF）は、ウイルスによる人獣共通感染症で、主に蚊媒介と家畜関連曝露が感染経路です。セネガルのサン＝ルイでは2025年9月以降、363例のリフトバレー熱感染・29例の死亡が公式報告され、防疫体制は最大警戒レベルですが、現時点で国際的な入国制限は行われていません。当局は家畜市場・蚊媒介・食品衛生面すべてでの予防徹底を呼びかけています。最新プレスリリースなど信頼できる政府・国際ニュースで継続的な監視・情報取得がお勧めします。

現在、都市部での大規模な市中伝播は確認されていませんが、家畜やその製品、物流・市場を介したウイルスの持ち込みにより、施設内や限定的な環境での曝露クラスター発生リスクは残存しています。都市部では農場・と畜場・家畜市場等への出入りや未殺菌乳・加熱不十分な肉の摂取を避け、長袖・忌避剤・蚊帳の活用など防蚊策を徹底してください。

発熱などの症状が出た場合は早めに医療機関へ相談し、当局の予防策・注意喚起に従って行動してください。

罹患者数・死亡者数（2025年10月30日現在）

- 罹患者数（累計）：**363例**（回復291例）
 - サン＝ルイ州：280例（死亡20例）
 - サン＝ルイ 73例、リシャル＝ツール 133例、ポドル 32例、ペテ 10例、ダガナ 32例
 - ルーガ州：18例（死亡4例）
 - ランギエール 9、クール・モマル・サール4、サカル 3、ダーラ 2
 - マタム州：23例（死亡4例）
 - ティローニュ 11、カネル 2、ラネロー 8、ナタム 2
 - ファティック州：15例（死亡1例）
 - ファティック 4、ジョフィオール 8、ディアコ 1、パッシ 1
 - ダカール州：9例
 - ケール・マサール 4、サンガーカム 5
 - カオラック州：14例
 - ニオロ 1、カオラック 13
 - ティエス州：2例
 - ティエス 2
 - タンバクンダ州：2例
 - キディラ 2
- 死亡数（累計）：**29例**



発症パターン

- 流行開始は2025年9月中旬で、以降ほぼ毎日新規症例が確認され多州に拡大。
- 年齢：5-34歳が最多、次いで35-59歳、5-14歳の順で、60歳以上と5歳未満は少数だが重症・死亡率が高い。
- 性別：男性が過半（男性約66%、女性約34%）。死亡者の性別（男性57.9%・女性42.1%）
- 職業・生活習慣：農村居住が73.5%、職種は牧夫・飼育者・農業従事者・家事従事者・商業・建設等に分布し、家畜接触・農牧作業に関連する曝露が示唆。
- 症状：発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、消化器症状。重症例では出血傾向・急速な重篤化。

リスク因子

- 媒介蚊：Culex tritaeniorhynchus（最重要・多地域）、Culex antennatus（広域・複数地域）、Anopheles gambiae（都市型／農村型両方・分布広）、Aedes vexans、Aedes ochraceus（局地的・一部流行地）など、雨季の湛水環境で密度上昇。
- 家畜接触：羊・山羊・牛の患畜、流産胎児、血液・臓器・体液への直接曝露、屠畜・解体・市場での接触。
- 未殺菌生乳・生乳製品、加熱不十分な肉製品の摂取
- 高リスク職種（家畜農家、屠殺場、家畜市場関係等）
- 河川氾濫域・一時水域の多い農村環境、家畜密集、家畜市場・屠場での衛生管理不備
- 家畜側動向：10月26日までに動物陽性219例（羊55%、ヤギ41%）、流産通報1419件、5地域（サン＝ルイ、ルーガ、マタム、タンバクンダ、ダカール）で家畜発生。

入国制限の有無

- 2025年10月31日現在、公的には国境閉鎖・入国制限・国内移動制限等の措置は発表されていない。焦点対策・監視・広報に重点が置かれ、流行管理はOne Healthの枠組みで人・動物・ベクター対策の統合を進め、移動制限よりも高リスク環境への局所介入を優先

住民・邦人向け予防要点 →[予防のポイント](#)

- 蚊対策：長袖、忌避剤、蚊帳、屋外の水たまり除去、扉窓の防虫管理
- 食品衛生：未殺菌乳・生乳製品、加熱不十分な肉の摂取回避
- 動物曝露：家畜流産・血液・臓器・体液への無防備接触を避け、必要時はPPE着用。異常家畜は通報

リンク

- 公式リンク：保健省公式サイト www.sante.gouv.sn、
- セネガル保健省 公式X https://x.com/santegouv_sn（更新が早い）
公式FaceBook <https://www.facebook.com/MinSanteSN>

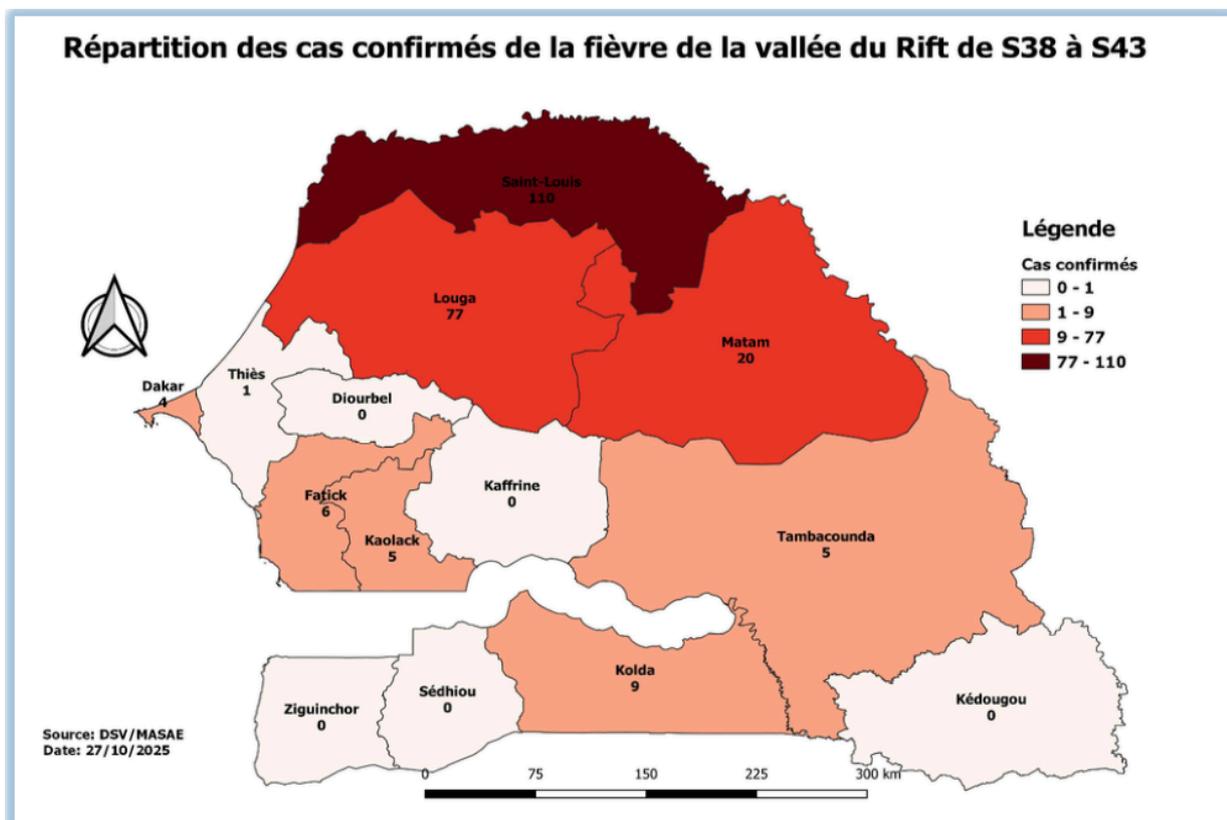
詳細

当局の防疫体制（スクリーニング・隔離・家畜対策等）

- 防蚊対策：屋内残留噴霧、粉剤散布（ドローン活用）、湛水域処理、学校施設の事前処理、ホットスポットでの集中的「tir groupé」実施。
- 家畜対策：小反芻獣14,445頭(10/26時点)の予防接種、流産通報・採材、発生農場の衛生措置、移動市場での衛生指導、動物へのアカリサイド（殺虫剤）処理。
- 畜産・屠殺作業の衛生指導：消毒、PPE、廃棄物管理
- 医療・公衆衛生：確定例調査、積極的症例探索、重症入院・軽症在宅管理、医療廃棄物管理、埋葬の安全化の実施。

当局の予防策、広報

- 体制：COUSレベル1（高）で事案管理、国・地域の疫学委員会（CNGE/CRGE）開催、SURGE派遣、監視・検査強化、院内感染予防、家庭訪問と在宅フォロー（PECADOM）。
- 医療資源の州内集中（Ndioum、Saint-Louis市）、重症患者搬送体制
- 広報：コミュニティラジオ・ローカル言語スポット・市場での啓発、コールセンター（800 00 50 50、1919、SAMU1515）の周知、10月24日付プレスでRVFの最新数値と予防遵守を再度喚起。
- 住民向け要点：防蚊（蚊帳・忌避剤・水たまり対策）、未殺菌乳・生肉の回避、家畜流産・異常の通報、保護具使用の徹底。



疫学的医学的根拠

- セネガル北部（サン＝ルイ・マタム周辺）はリフトバレー熱ウイルス流行のホットスポット。過去の流行（2020年など）でも同地域の感染が多数発生。（別資料参照「リフトバレー熱について」）
- リフトバレー熱は動物-ヒト間での直接接触（生体・死体・体液）、蚊経由の両経路で伝播。
- 近年の発生は気象変動（大雨・洪水）により蚊発生密度増大（特に雨季）、家畜市場密集、未加熱ミルク・生肉消費など環境・行動要因が関連。
- 伝播様式：ヒトは家畜の血液・臓器・体液との接触、エアロゾル曝露（屠畜等）、および蚊媒介で感染しうることで流行データ（職業・居住分布、家畜流産多発、媒介蚊優占）と整合。
- 地理・気象：サン＝ルイ～マタムの灌漑・氾濫原は雨季に蚊が増えやすく、家畜集積・移動、週末市場の密集がヒト曝露機会を増大させる構図が確認されています。
- 重症化：一部で出血傾向・肝障害・眼症状・神経症状を伴い、致死例は持続的に報告されているため、早期検知・PPE・標準・接触・飛沫予防策が推奨されます。
- セネガル流行の特徴は「ほぼ全郡的な集団感染」「高リスク職種・家畜密集部の急性流行」。急増した感染症例に対し、One Healthアプローチ（人獣共通感染症対策の統合）が求められます。

ダカール等都市部への拡大

- ヒト症例はダカールで9例に留まる一方、ダカールの農牧場で家畜の新規フォーカスが確認されており、家畜・物流・市場を介したウイルス持ち込みによる発症が示唆されます。
- 都市部は媒介環境が不均一ながら、*Aedes aegypti*等が検出されており、家畜施設・と畜場・市場・未殺菌乳の流通など限定的な曝露クラスター形成リスクに留意が必要。
- 現時点のデータでは大規模な都市内伝播は認められず、焦点化した獣医衛生管理と施設内ベクター対策、リスクコミュニケーションの徹底が抑制に有効と判断されます。

ベクター（媒介蚊）の傾向

属 (Genus)	主な種	主な役割・分布	注目事項
Culex	<i>tritaeniorhynchus</i> , <i>antennatus</i> , <i>quinquefasciatus</i> , <i>neavei</i> , <i>poicilipes</i> , <i>bitaeniorhynchus</i>	都市・農村両方、広域（特にSaint-Louis/Dakarは <i>tritaeniorhynchus</i> / <i>antennatus</i> 中心）	RVFウイルス検出多数、耐性上昇
Aedes	<i>aegypti</i> , <i>vexans</i> , <i>ochraceus</i> , <i>sudanensis</i> , <i>mcintoshi</i> , <i>fowleri</i> , <i>vittatus</i> , <i>hirsutus</i>	一部地域で局所的、流産増加エリアに目立つ	都市型（ <i>aegypti</i> ）・農村型（ <i>vexans</i> 等）／多様性
Anopheles	<i>gambiae</i> , <i>pharoensis</i> , <i>ziemanni</i> , <i>rufipes</i> , <i>squamosus</i>	広域型、都市部も出現	検体陽性／都市流行に重要
Mansonia/ Uranotaenia	<i>uniformis</i> , <i>africana</i>	一部農村～都市近郊、環境型水域	流行地サブ環境

殺虫剤感受性と耐性

主要種（*Cx. tritaeniorhynchus*）でデルタメトリン、クロルピリホス耐性の上昇
耐性への対策としてFludora（デルタメトリン＋クロチアニジン）混合剤採用が進んでいる

マイナー種の局地流行

Aedes aegypti, *Ae. fowleri*, *Ae. hirsutus*, *Ae. sudanensis*, *Ae. vittatus*等も人目につかない微小な水域・
家畜周辺で局地拡散が報告

Anopheles pharoensis, *An. ziemanni*, *Coquillettidia metallica*等もサブ流行地でサンプル採取